

『後世に残したいラオスの伝統と文化』

ドゥアンサモーン シースウォン
サイセッター高校（ビエンチャン特別市）



私達の国ラオスは、私達の先祖が現在に至るまで継承してきた文化や芸術を持っている国です。文化について言うならば、地球上のどの国もその国独自の文化や慣習を持ち、人々は、各世代が継承してきた伝統慣習を尊重しているのではないかと思います。

私は小さな村に住んでいますが、昔から人々がお互いに守ってきた素晴らしい文化や伝統慣習を持つ豊かな村です。ラオス人の文化は、何十万年も前に誕生し、それは、様々な違った人たちの間で大切にされ信奉されてきました。私達ラオス人は全員、同じ規律である5つの戒律や、ヒート・シップソーン（毎月の行事）、コーン・シップシー（人々や役人、夫婦などが守らなければならない決まり）という慣習を大切に守っています。

また、ラオス人は勤勉で思いやりがあり、寛容でお互いに助け合い、友達や姉妹兄弟をととても大切に作る国民であるということを協調したいと思います。ラオスには、様々な伝統慣習や文化があり、それは、人々の暮らしの中に見ることができます。私自身、ラオス人として生まれたことに、また、この国に生まれ、先祖が継承してきたラオスの素晴らしい文化を見ることができることに誇りを持っています。私の民族のお祭ではありませんが、私は毎年家族と一緒にモン族の新年祭に行きます。これは、たとえ民族が違って文化を大切にすることに違いがないこと、民族を分け隔てしないということを教えてくれます。昔からずっとラオスの国の支柱となっている主要な文化には、お寺にお参りすること、手を合わせる（挨拶）、シン（巻きスカート）を身につけること、髪を束ねることなどがあり、これらは今でも私達ラオスの社会で多く見ることができます。

また、ラオス国民はみんな慣習を厳格に守らなければなりません。例えば、愛し合う男女は、ラオスの決まりを破ってはならないのです。愛し合う男女は、結婚式を挙げるために両家の目上の人と相談しなければならず、結婚式では新郎側が行列を作って新婦の家を訪れます。これもラオス人が継承してきた文化であり、「ガーン・ヘー・クァーイ」と言われているものです。

これ以外に、ラオス正月、ブン・オーク・パンサー（出雨安居：僧が約3ヶ月間の修行を終えるのを祝う仏教行事）、ブン・カオチャー（焼むすび奉獻祭）など様々な祭があります。これらはラオス人を映し出しているものであり、外国人はとても関心があるようで「ラオスには参加し、試してみたい文化がある」と言います。ラオス人が自国の文化をみんなで守っているならば、外国人はラオスに遊びに来てラオスの文化を知りたいという気持ちになります。私は、ラオスを訪れラオス文化を知った外国人は、ラオスの優れた文化をもっと知りたいと考えるようになると思うのです。だから私達ラオス人は心一つにして、ラオスの文化が後世に残るように守っていかなければならないと考えるのですが、一部の未熟な若者はラオスの慣習を破り、中途半端な形にしています。現在、党と政府は一緒になってこのような問題を解決し、幸せな社会となるよう、また、ラオスの文化を破るような考えを持たないようラオス国民に呼びかけています。

私の家はお寺が近いこともあり、毎朝母と一緒にお寺に行き、お坊さんにお供えをします。いつもお年寄りがパービエン（ストール）を肩にかけ鉢をもってお寺に来ているのを見かけますが、私にはその慣習がとても誇りに思えるのです。毎日お寺にお供えに行くと、私はその日一日を、穏やかに、安らかに、そして幸せな気持ちで過ごすことができます。私は母とお供えに行くことが好きですし、時には祖母

とも一緒に行くのですが、祖母は私に親孝行をするように教え、諭します。

また、お祭の時期になると村の人たちと私の家族は、お祭のために毎回力を合わせます。村の役人はよく私に、「ラオスの文化は輝かしい文化であり、私達はずっと守っていくべきであり、ラオス独自の文化を他の者に破壊させてはならない」と教えます。私はこの教えを受け入れ、従います。

また、私はテレビを見て、様々な文化、特に日本の文化に関心を持つようになりました。お祭で日本女性が着物を着ているのを見ると、機会はないのですが着てみたいくなります。また、「法隆寺」のように、日本のお寺も美しい形をしています。日本人は協力して文化を守ることによって外国人の日本文化への関心を高め、多くの観光客が日本を訪れています。私も日本へ行って、日本の文化に触れ、もっと知識を増やしたいと思います。もしも、日本へ行くことができれば、私は、ラオスの文化がどんなに興味深いものであるか、分かってもらえるよう日本人と文化交流をしたいと思っています。

今まで私が述べてきたことは、ラオス文化の一部に過ぎません。もしもっとラオスを知りたいと思ったら、ラオスを訪れラオスに触れて下さい。そうすればより深くラオスの文化を知ることができるでしょう。ラオスの文化、伝統慣習はラオス人にとって無くてはならないもの、それは母親と子供の関係と同じようにいつも繋がりをもち、どこにいても懐かしく思うものなのです。ラオスの文化は美しく敬虔で、それはラオスの国民性を表しラオス人を様々な国際舞台に立たせます。私は、「もち米に塩辛をつけて食べる人である」と言われているラオス人として生まれてきたことを誇りに、そして、独自の文化を持つこの国に生まれたことを幸せに思っています。だから国中の人々に心を合わせて文化を守りましょうと呼びかけさせて下さい。この素晴らしい文化を後世に残し、後世の人々が文化を学び継承することができるように。これは世界への呼びかけでもあるのです。ラオスには「文化は国を表し、礼節は血筋を表す」という諺があります。